

ピースあいち・メールマガジン第46号(2013年9月号)  
「所蔵品から」関連画像

(日一十月三)日二第

起床	五時〇〇分
朝食	六時〇〇分
二見笑	七時〇〇分
宇治山田参	七時四〇分
敵傍御陵前着	九時三六分
檀原神宮参拜	一〇時二〇分
檀原参	一〇時五五分
奈良着	一一時三五分
(奈良見學)	
奈良参(文)	一六時二三分
名古屋関越参	二〇時〇八分
解散	二〇時四五分

(日一十月三)日一第

市民病院前集合(文)	六時三〇分
名古屋参	七時二〇分
名古屋参	八時〇〇分
宇治山田参	一〇時一〇分
外宮参拜	一〇時四〇分
内宮前着	一一時三〇分
(休憩)	
昼食	
内宮参拜	一三時〇〇分
朝熊登山	一五時〇〇分
二見参	一六時三〇分
(宿泊)	



修学旅行の葉

左:表紙

中・右:見返し(表紙の裏)の日程表

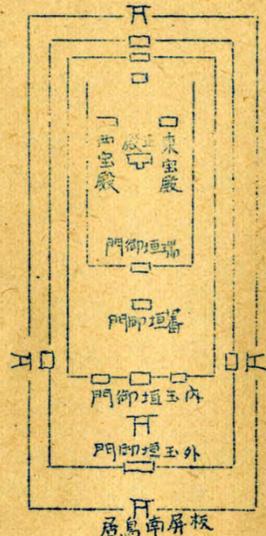




宇治山田市ヲ中心トスル鳥瞰図

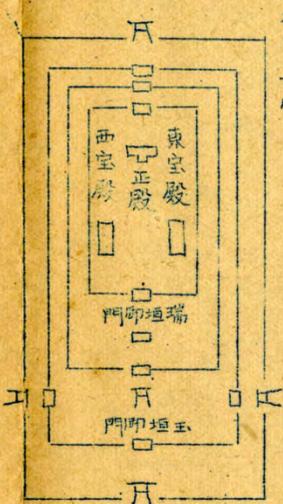
内宮

天照大神ヲ祀リ八咫鏡ヲ奉安シ奉ル  
 我々國皇皇、大御祖ハ皇孫瓊杵尊ガ御降臨  
 際、御神勅ニヨツテ、宮中ニ奉祀セラレテヤダガ  
 第十代崇神天皇ノ御代、御鏡ヲ大和ノ笠縫ノ  
 宮ニ祀ラル。其ノ後、第十一代垂仁天皇、二  
 十五年三月、自ニ倭姫命ヲシテ、伊勢國渡來郡  
 五十鈴川上ニ祀ラシメ給フ。紀元六五六年  
 天武天皇、朱雀三年九月ヨリ、勅命ニヨリテ  
 二十年毎ニ遷シ古ノ儀ヲ行ヒ給フコトナル  
 織田信長ハ戰國時代ニ此ノ儀ノスタレタルヲ  
 復興ス  
 昭和四年、御遷宮アリ



外宮

豐受大神ヲ祀ル  
 衣食ノ源ヲ司リ給フ御神ニシテ神威イト  
 畏シ  
 雄略天皇ノ二十二年七月(紀元一三八年)丹  
 波國(京都府)比沼、浜奈井ヨリ此ノ地ニ遷シ  
 奉ル  
 天武天皇ノ御時ヨリ二十年毎ニ遷宮ノ御定  
 メトナル



明治天皇御製

とこいへに、民安カ水といのなる  
 我カよも守ル伊勢の大御神

又方の天にのぼれるこちにて

いすゞの宮にまゐるけしかな

照憲皇太后御歌

禰(の)伊勢の内外の宮柱  
 ゆるぎなき世をなほ祈るかな

内宮外宮御構造ノ異ル點

- (一) 東宝殿、西宝殿、位置
- 内宮………正殿、後方
- 外宮………正殿、前方
- (二) 千木
- 内宮………内々、内
- 外宮………外々、外
- (三) 鯉木

御門 内宮………六本  
 外宮………五本  
 正殿 内宮………十本  
 外宮………九本



夫婦岩

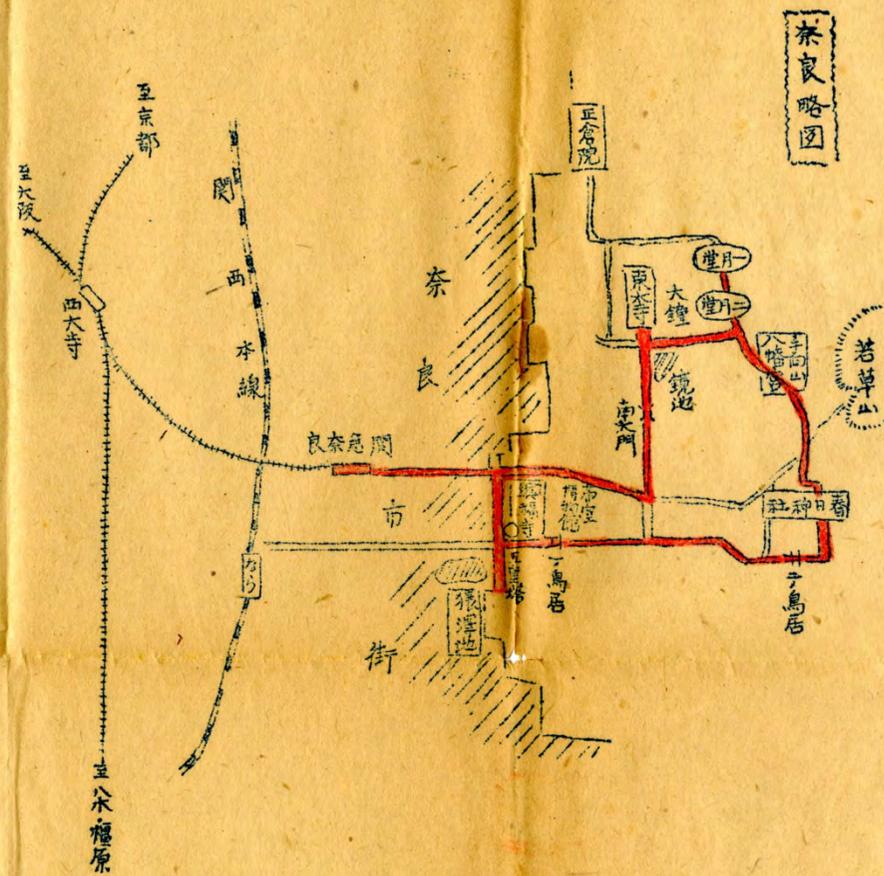
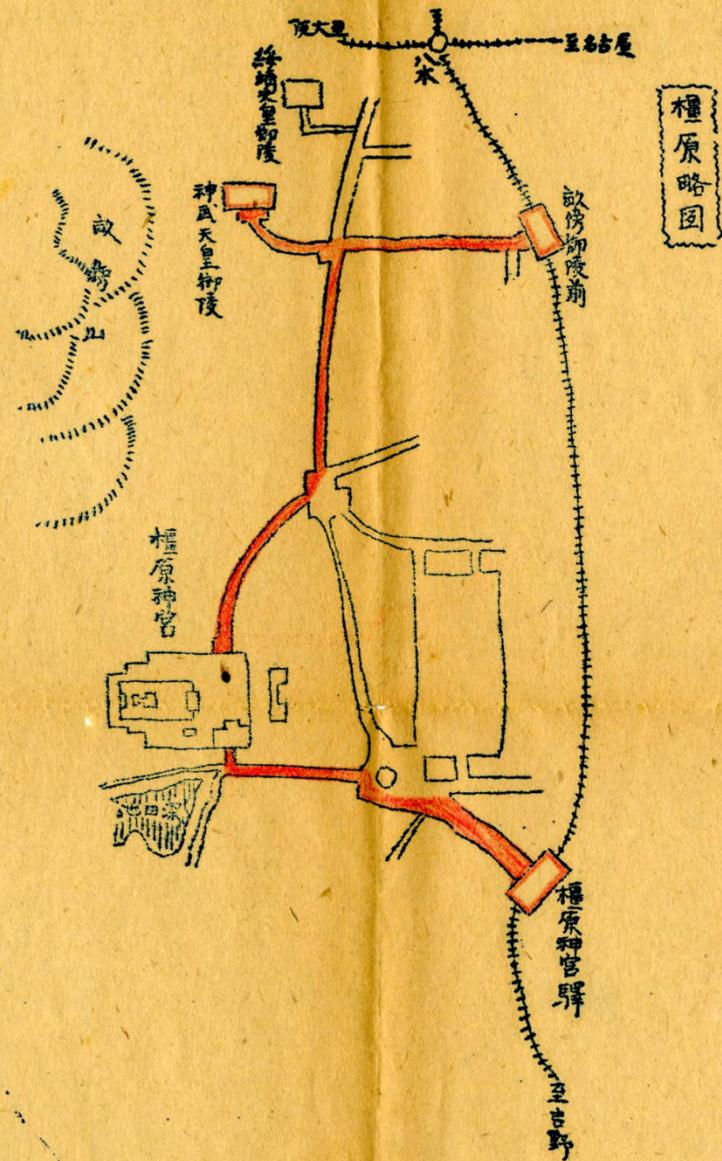
高キ方ハ高サ三丈(約七米) 兩岩ノ距  
 離三間(約五五米) 海水、浸蝕作用  
 ニヨリテ生ズ  
 海岸ニ立チテ兩岩、間ヨリオトリ出ツ  
 ル紅ノ旭光ヲ仰ゲバ莊嚴サ筆舌ニ  
 ワクシガタシ

朝熊山

伊勢志摩子ニ跨リ海拔一七〇。尺(五五米)  
 風光壯絶 脈下二十八州ヲ一望スベシ  
 山上ニ金剛証寺アリ 僧曉代ノ開  
 キシモノニシテ 國宝以下多數ノ珍付ヲ藏ス  
 ケーブルハ四十五度ノ急勾配ニシテ東洋  
 ノ稱アリ

本居宣長

朝夕にもの食ふごとに豊受の  
 神の恵みを思へ世の人



檀原略図・奈良略図